

ドイツの切手に現れた科学者、技術者達(13) ハインリッヒ・アレキサンダー・フォン・フンボルト

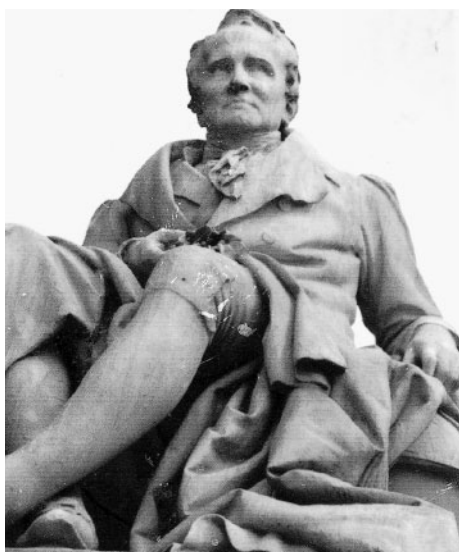
Scientists and Engineers in German Stamps (13). Heinrich Alexander von Humboldt

筑波大学名誉教授 原田 馨
KAORU HARADA

Professor Emeritus, University of Tsukuba.



アレキサンダー・フンボルト、死亡100周年記念切手。
1959年、西ドイツ発行。



アレキサンダー・フンボルトの座像、フンボルト大学本館正面の左手にある。

ハインリッヒ・アレキサンダー・フォン・フンボルト

ハインリッヒ・アレキサンダー・フォン・フンボルト (Heinrich Alexander von Humboldt, 1769-1859) ドイツの地理学者、博物学者。

アレキサンダーはヴィルヘルム・フォン・フンボルト (Wilhelm von Humboldt, 言語学者、人文学者、政治家) の弟であり、ベルリンに生まれた。少年時代の教育は主として家庭教師より学んだ。大学教育はまずフランクフルト大学(オーデル河畔)で経済学を学び、ゲッチンゲン大学で文献学、自然科学を学んだ。1790年には西ヨーロッパを旅行し見聞を広めた。1791年フライベルク鉱山学校に入学し、1792年にはプロイセン鉱山部の技師補佐になり、安全灯など有用な道具を発明した。1791年~1795年にかけてボヘミア、オーストリア、チェコスロバキア、ポーランドの岩塩坑を調べた。また地磁気の調査を行った。アレキサンダーは自然科学者であると共に人文主義者であり、1794年兄ヴィルヘルムのいたイェナを訪ねゲーテ (W. v. Goethe, 1741-1832)、シラー (F. Schiller, 1759-1805) と交流した。

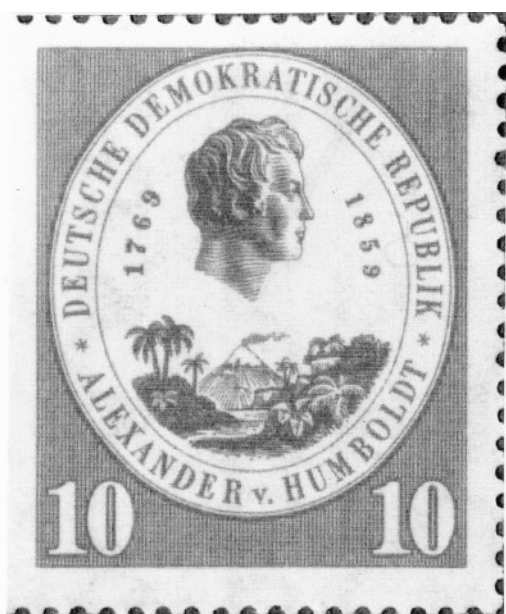
フンボルト兄弟には十分な親の遺産があり、生活のために働く必要はなく、またアレキサンダーは独身であったので、何時何処へでも長期間調査旅行に行くことができた。アレキサンダーは1799年、ナポレオンのあとを追ってエジプトへ行こうとしたが、旅行が困難になり、スペイン王からスペイン領新世界訪問の許可を得て1799年からフランスの植物学者ボプラン (A. Bonpland, 1773-1858) と共に南アメリカへの調査旅行に出発した。オリノコ河の源流がアマゾン川の源流の一つと結びついていることを明らかにし、途中多くの植物標本、地質学的標本を採集した。また南米大陸の西側を流れる海流を調べた。現在この海流はフンボルト海流と云われている。活火山、地磁気の調査や、大気温度は高度が高くなるにつれて低下することも調べた。またエクアドルにある高山チモラゾ (6310m) に登り高山登頂記録を達成した。アレキサンダーは数々の地球についての新しい情

報と資料を持ち帰った。南アメリカからの帰路にはアメリカ合衆国を訪ね、科学技術の愛好家であった米国のジェファソン大統領を訪問した。

アレキサンダーはヨーロッパに帰着後パリに定住したが、20年を費やして美しい文章で旅行記20巻を書き残した。有名なフランスの実験科学者であったゲイ・リュサック(Gay-Lussac, 1778-1850)と大気の組成についての研究をおこなった。当時のアレキサンダーはヨーロッパ中に最も知られた有名人であった。ナポレオンの失脚後プロシアのフリードリッヒ・ヴィルヘルム3世(Friedrich Wilhelm III, 1770-1840)のもとで外交官となり、ベルリンに移った。1829年ロシアのニコライ1世(Nicolai I, 1796-1855)に招かれロシア領であるアジア地方を調査する国際的活動を続けた。70才になりアレキサンダーは彼の経験と新知識を集大成した書物の著作を計画した。彼の視点は個々の細部についてのものではなく巨視的な地球的立場から調査を行い全地球を把握しようとした。彼は自ら行動することにより地球についてのさまざまな事実を集め、広大な視点に立つ書物「コスモス」(Kosmos =宇宙)を著した。アレキサンダーの業績を振り返る時、彼は単なる博物学者ではなく、植物学、火山学、気象学、地質学、地理学などを総合した新しい「地球学」の創始者であると云うことができるだろう。

彼は科学者のサロンの重要人物として有能な人物の推薦をして、その人物をアカデミックな地位につけるような業務を行った。このような運動の大変成功した例が若いJ. リービッヒのギーセン大学への推薦であった。リービッヒはギーセン大学の化学教室の前任者が死亡すると数年のうちに化学教室を主催し、新しい化学教育と化学研究を開発させギーセン大学の名称をヨーロッパ中に広めた。この功績の故にギーセン大学はユスタス・リービッヒ大学と称せられた。この人事における成功は科学を広い立場から見、有能な人物を推薦したアレキサンダー・フンボルトの知識の広さに由来する。19世紀の前半は多くの自然科学の諸分野が確立しつつあり、化学の専門家(chemist)が生まれつつあった時期であった。

※本稿に掲載の写真は、全て著者の撮影によるものである。



A・フンボルトの南米大陸探査記念切手。1959年、DDR発行。



A. フンボルトのウラル・シベリア探査旅行記念切手。1959年、DDR発行。



4枚の有名人切手の1枚。1969年、DDR発行。

ドイツの切手に現れた科学者、技術者達(13) ハインリッヒ・アレキサンダー・フォン・フンボルト



水槽の淡水魚を調べる若いA. フンボルト。



ベルリンにあるハンブルク駅展示場で撮影した若いA. フンボルトの大理石の座像。



ベルリンの北部にあるフンボルト家のテーゲル荘。フンボルト兄弟は少年時代ここで教育を受けた。テーゲル荘は記念館として一般に公開されている。広大な敷地の中にはフンボルト家一族の墓地がある。

A.フンボルト生誕200年記念切手。
1969年ベルリン発行。



表紙写真

ミヤマウスユキソウ(深山薄雪草) キク科ウスユキソウ属

日本に自生する、ヨーロッパアルプスのシンボル「エーデルワイス」と同じ仲間の花としてこのミヤマウスユキソウ(別名ヒナウスユキソウ)は知られています。秋田駒ヶ岳、鳥海山や月山など東北地方の山に多く時々大群落を見ることが出来ます。特徴的な綿毛に覆われた花茎の高さは10cm前後、花期は7~8月。撮影地は鳥海山です。(写真文 北原)

編集後記

3月21日の春分の日、今年は早々と関東地方に桜前線がやってきました。暖かい春の風と開花を促す催花雨(さいかう)を交えながら、爛漫の春が列島を北上していきます。入学式、入社式を迎えて、フレッシュマン達もこの春の中を初々しく行き交う季節でもあります。やがて芽吹いて青葉となり新しい社会へと溶け込んでいくことでしょう。春の息吹は、人にもそして花

にも、きらきらと眩しい輝きを放ち、ほんとうに美しく新鮮に感じられます。ケミカルタイムスも今回で200号を迎え、新たな節目を越えていくこととなりました。ご寄稿者の暖かいご支援を頂きまして、編集員一同一致協力しより充実した誌面作りへとまい進する所存でございます。今後とも何卒宜しく願い申し上げます。(古藤 記)



関東化学株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3丁目2番8号
電話 (03) 3279-1751 FAX (03) 3279-5560
インターネットホームページ <http://www.kanto.co.jp>
編集責任者 古藤 薫 平成18年4月1日 発行